

議事録【要点筆記】

会議名称	令和7年度 第1回 米沢市総合教育会議
開催日時	令和7年6月6日（金） 午後4時～午後5時35分
開催場所	置賜総合文化センター 4階 教育委員室
出席者	米沢市長 近藤 洋介 米沢市教育委員会教育長 佐藤 哲 米沢市教育委員会 委員 神尾 正俊 米沢市教育委員会 委員 我妻 仁 米沢市教育委員会 委員 渡邊美智子 米沢市教育委員会 委員 伊藤 綾子
欠席者	なし
事務局出席者	教育管理部長、教育指導部長、教育総務課長、社会教育文化課長、社会教育文化課主幹、スポーツ課長、学校教育課長、適正規模・適正配置推進主幹、教育総務課長補佐兼総務主査、教育総務課上席専門員、教育総務課主任（総務担当）、政策企画課長
会議次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 会議の公開又は非公開、議事録の作成 4 協議 (1) 米沢市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について ①計画期間について ②構成について ③策定のスケジュールについて ④意見交換 (2) その他 5 閉会
会議資料	・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 資料1 「米沢市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について」 ・ 資料2 「米沢市教育等に関する施策の大綱」 ・ 資料3 「米沢市教育振興基本計画（概要版）」 ・ 資料4 「（仮称）米沢市総合計画（案）」 ・ 資料5 「第4期教育振興基本計画（概要）」 ・ 資料6 「山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」 ・ 資料7 「第7次山形県教育振興基本計画（概要版）」

会議内容

【1 開会】

省略

【2 市長あいさつ】

- ・市長に就任して約1年半となるが、これまで、市民が幸せを実感できるような「好循環の米沢」の実現に向けて、市政に取り組んでいる。
- ・「好循環の米沢」には三つの柱があり、一つは「人づくり教育の米沢」、二つ目は「所得の増える米沢」、三つ目は「暮らしやすく安全な米沢」である。この三つの柱を実行することで、ウェルビーイングをかなえることができると確信している。
- ・「好循環の米沢」のスタート、起点となるのが、人づくり・教育であり、これまで教育長を先頭に教育行政を進めてきたと認識している。
- ・様々な意味で県内最高水準の教育環境をつくるのが、米沢再生のカギであり、現在、令和8年度のスタートに向け、本市最上位計画である「総合計画」を策定しているが、それと歩調を合わせ、本市教育の基本理念、基本方針を示す教育大綱を、これから議論いただくということである。
- ・A I や情報通信技術の進展や急激な少子化など、社会構造そのものが激変しており、地域間や地域内の格差も進行している中、本市全体の教育水準の底上げが必要になっている。すべての子どもたちに対して居場所と出番をつくってあげることが、市長としての責務だと考えている。
- ・現行の教育大綱が策定されたときとは社会状況が大きく変わってきている。例を挙げればコロナの影響による出生数や婚姻数の大幅な減少であり、加えて、教育環境であれば、教師不足がより深刻化している。この傾向は残念ながら、今後も加速することが想定される。
- ・山大教育学部が復活するのは良い話である。「教育山形」の復権に向けて歩みだした流れに合わせ、考えていく必要がある。
- ・一つには、米沢に育つ子どもたちが、自分の可能性に挑み、居場所を持ち、学びの機会を持つことができるようにすること。加えて、中高一貫教育校の新設に、今年から動きを加速化させたい。
- ・時代の変化にあった人材を育てる環境を整えること。加えて、地域全体で子どもを育む環境を整えていくこと。また、それと同時に、年齢、障がいの有無、性別等にかかわらず、教育機会のある社会を築くことも肝要である。
- ・皆様との意見交換を通じて、より良い米沢の教育、人づくりを整える教育大綱、教育振興基本計画を策定することが重要である。

【3 会議の公開又は非公開、議事録の作成】

会議は公開とし、議事録は要点筆記、発言者名は役職名のみの記載により作成することで了承を得た。

【4 協議】

(1)米沢市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について

①計画期間について

②構成について

③策定のスケジュールについて

事務局

- ・米沢市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の計画期間、構成及び策定のスケジュールについて、主に資料１に基づき説明した。
- ・（仮称）米沢市総合計画（案）について、資料４に基づき説明した。

委員

- ・米沢市総合計画（案）の基本目標１に記載のある「米沢市に誇りを持つ子ども」とは、どのようなイメージか。

事務局

- ・米沢市に誇りや愛着を持つ子どもが増えれば、一度、市外に転出しても戻ってくる子どもが増えると思い、そのような表現とした。

市長

- ・よく言われている「シビックプライド」、また「米沢愛」と言ってもよいと思うが、岩手県盛岡市のように、郷土の偉人や先人を顕彰し、その功績をしっかりと学んでシビックプライドを持つことや、食育に関わって地域のおいしい食材を知ること、また郷土に帰ってきたいと思うことなども、シビックプライドなのかもしれない。
- ・先人の顕彰や食育なども含め、地域愛を持つ人材を育てていくということでよいと思う。

④意見交換

市長

- ・意見交換であるが、私の教育振興に関する思いは、先ほどのあいさつの中で申し上げたが、少し補足させていただく。
- ・米沢愛、シビックプライドを育むような食育を通じて、地域の農産物への理解を深めることも大事である。
- ・文化、スポーツは、地域の活性化や交流という視点から、文化財や先端技術など、本市が有する優れたものをしっかりと学ぶという教育も、これからますます重要である。
- ・先生方の職場環境の改善は、市レベルでは難しいわけではあるが、教員免許を持っておられる方々を活用することも考えてはどうか。また、山大教育学部を活用することも一計であり、教育大綱策定にあたり、どのような表現になるかであるが、問題意識として持つべきではないか。
- ・次に、教育分野に関して、教育委員の皆様が、日ごろお考えになっていること。また、教育に関する思いや教育大綱に盛り込むべきことなどについて、お話いただきたい。

委員

- ・現行の教育大綱の基本理念に「教育の米沢品質を共に創り上げ、持続可能な社会に貢献できる人づくり」とあり、基本方針にも鷹山公の言葉や教え、考え方が盛り込まれており、米沢らしい教育大綱であるとあらためて拝見させていただいた。
- ・基本的には、現行の教育大綱を継続、踏襲すべきと考えているが、今後５年間の米沢市の教育ということを考えたとき、新たな教育大綱に取り上げるべきと思ったことがあったの

で、ここで申し上げたい。

- ・一つには、現行の基本方針に「新たな時代にマッチした思いやりを持った「がってしない子ども」の育成」とあるが、人を思いやり、お互いの個性を理解して協力し合える子ども、新たな時代ということであれば、もう少し踏み込んで、今、盛んに言われている男女の問題、ジェンダーフリー、インクルーシブ教育やインクルーシブ環境への配慮といった文言が盛り込まれるべきと思う。
- ・近年、障がいの有無や性別、国籍といった多様な事情や背景を持つ子どもたちが増えており、すべての人が社会の一員として一緒に学習し、生活していくことを学校でも実践していくことが、いじめ防止や楽しい学校づくり、不登校の防止につながると思った。
- ・二つ目は、小中高そして高校、大学の連携という視点である。米沢市は三つの大学を有する学園都市であり、校種を超えて、共に教育の米沢品質を創っていくことは素晴らしいことであるが、併せて、中高一貫教育校の誘致に向けた視点も、基本方針の中に盛り込んではどうかなと思う。
- ・大学や高校の持つ専門性を広く市民に紹介、還元していただくことも大事であると思うので、高校、大学との連携を教育大綱の中に盛り込んでいただきたい。
- ・最後にもう一つ、米沢を愛する子どもの育成という視点である。私は、社会教育の仕事も経験させていただき、様々なスポーツや文化などの地域活動に関わる方々と多く出会うことができたが、それらのすべての人は、一様に人一倍生き生きと活動し、率先して物事に取り組む、地元が大好きな人ばかりであった。
- ・そのような児童生徒を育てるにあたっては、地域の方々の力は本当に大きいと考えているが、学校の統合や授業時数の確保などにより、学校と地域の関係が希薄になっているのではないか。
- ・ふるさとを知ることは、ふるさとを愛することにつながる。ふるさとを愛することができれば、ふるさとの未来を見つめる子どもが育つ。ふるさとの未来を見つめることができれば、ふるさに貢献できる大人が育つと思っている。
- ・米沢の教育から一人でも多くの子どもたちが、米沢の未来に貢献してくれる。そして、米沢に残ってくれる。戻ってきてくれる。そのような子どもたちが多くなれば良いと思っている。

委員

- ・これからの予測不能な社会の中で、子どもたちが大きくなり職業人となったときに、どのような能力が求められるかという観点からお話をしたい。
- ・三年前に経済産業省が公表した「未来人材ビジョン」の中で、次の社会を形づくる若い世代に必要な能力として、三つのことを掲げており、私も共感できる点があったのでお話をさせていただく。
- ・一つは、「従来の常識や今まで当たり前とされていた前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」、二つ目は、「自分が何か夢中になるものを見つけたら、それを手放さず、最後まで一つのことを掘り下げる姿勢」、三つ目は、「今のグローバルな社会問題や自分の身の回りにある地域課題などを解決していく意欲」である。

- ・また、「自分と意見が異なる他者、あるいは価値観の違う他者との多様性のある考え方や価値観を受け入れて、認識、理解して一緒に一つの目標に向かっていく能力」も必要である。
- ・ある出版社が、小中学生の保護者1,000人を対象に、「自分が大人になってから、子どものときにこういうことをやっておけばよかったとか、もう少しこういう力をつけておけばよかったと思うことは何か。」というアンケート調査を実施したところ、一番多かったのが「語学力」であった。インバウンドがこれだけ進んでいるが、語学力の欠落によってコミュニケーションをとることができないということがあり、この結果には「なるほど」と思った。
- ・同じアンケート調査で、「子どもたちが大人になるにあたって、これだけは身に付けてほしいことは。」という問いに対して、一番多かったのは「コミュニケーション能力」であった。
- ・その他の回答を含めて、このアンケートの結果には「社会人として仕事をしていく中で業務改善をしていく、あるいはこれまでとは違ったことにチャレンジする、創造する力を子どもに身に付けてほしい。」という親としての思いが表れていると思う。
- ・現行の教育大綱の中にも、このような考え方、例えば、「勇気をもって夢に向かっていく」とか、「たくましく社会を生き抜いていく」という言葉があり、県の計画等にも良い表現や考え方があるので、それらを取り入れながら、ぜひ、米沢らしい教育大綱を作っていただきたい。
- ・新たな教育大綱、基本計画の中に具体的な施策として入れていただきたいことを四つお話ししたい。
- ・一つは、本市の成績が県平均を下回っている全国学力テストへの取組である。このテストの中身を見れば、知識や技能だけではなく、判断力や思考力なども評価する内容になっているので、このテストの点数を上げるためには、常日ごろの学習の中で、判断力や思考力、探究力を身に付けなければならないので、ぜひ5年間で力を入れて脱却してほしい。
- ・そのための具体的な方策として、授業改善という言葉がよく使われるが、授業改善というよりは、教師一人一人の授業の質を磨く、ブラッシュアップが必要であり、そのための支援を教育委員会で進める必要がある。例えば、スーパーティーチャーや教師の達人など、授業の上手な先生をうまく活用しながら、教師への支援体制を充実させていきたい。
- ・授業改善に取り組むには、先生方の教育活動に集中できる時間と環境が必要であり、そのような意味から、来年にスタートする部活動の地域展開は、ゲームチェンジャーになると思う。土日の部活動を地域の方々と連携しながら展開していくことで、先生方の心のゆとりが生まれ、授業活動の質を上げる大きな転換点になると思う。
- ・二つ目は、学力向上には読解力が大事であるということである。教育のための科学研究所の新井先生が開発したRST（リーディングスキルテスト）は、非常に良い内容なので、ぜひ、読み解く力、読解力を高める一つの方策として、このリーディングスキルテストに取り組んでいただきたいと思う。
- ・三つ目は、語学力の向上である。これはグローバル人材を育成する意味でも大事なことな

ので、中学3年生までに8割くらいの生徒が、英検3級を受検できるような力をつけてほしいと思う。また、受検料の半額を市から補助していただければありがたいと思う。

- ・さらにステップアップして、中学2年生で英検3級を受験し、3年生で準2級を受けるような生徒がいれば、その生徒の受検料を全額補助するような制度を設け、全市上げて語学力の向上を図ってほしい。
- ・最後に、米沢からは素晴らしい先人が輩出されて、その功績がいまだに残されている。そういったものに愛着を持つことは大事であるが、そのためにも、現在行っているふるさと愛を育むような学習のほか、行政との関りの中で、米沢への愛着、あるいは米沢に恩を感じるような取組を何かできないかと考えている。コロナ禍において、大学生にお米を配る事業を実施したが、受け取った学生から多くの感謝の言葉が聞かれ、非常に評価が高い事業であった。このように何かつながりを持って米沢市出身の高校生や大学生に継続して支援するような施策をお願いしたい。

委員

- ・数年前になるが、現行の教育大綱、教育振興基本計画の策定に携わらせていただいた際、私自身、米沢市の教育を受ける子どもの親として、「親としての立場、教育とは何か。」ということを考える時期があった。
- ・その時考えたのは、学校教育、また社会教育において大前提となるのは、自分は受け入れられている、自分は大切にされている、必要とされているという幸福感ではないかということで、そのことを教育大綱に盛り込んでいただきたいという趣旨でお話させていただく。
- ・この幸福感について考えたところで、最近、国や県でもウェルビーイングという言葉が使われ始めたが、これがクローズアップされてきたということは、社会の大きな変化とともに、学校教育に求められる役割が、大きく変わりつつあるのではないかなと思う。
- ・知識や技能の習得だけではなく、子どもたち一人一人が、自分らしく健やかに生きていく力を育てるということが、これからの教育において、何より大切なのではないかなと思う。
- ・ウェルビーイングというのは、単に幸せという言葉で括られているものではなく、身体的、精神的、そして社会的にもバランスの取れた良好な状態にあるということであり、自分の気持ちや思いに気づき、それを大切にしながら他者とつながっていくこと。それが結果として自分は大切にされているという思いにつながり、生きる力、そして未来に思いを馳せる希望へとつながっていくと思う。
- ・子どもたちだけでなく、その保護者、そして先生方や地域の皆さんが、いかに豊かなウェルビーイングを感じているかということが、子どもたちの幸福感や生きる希望を持つことにつながっていく。したがって、学校の先生方のウェルビーイングを高めることが、今、すごく求められているのではないかな。
- ・家庭、地域お互いが支え合いながら、補いながら、子どもたちの成長を喜び合えるような教育環境が必要である。
- ・米沢市は、自然豊かで歴史と文化に根差した地域であると思う。人と人とのつながりも深く、子どもたちを温かく見守る風土もある。だからこそ、この土地だからできるウェルビ

ーイングもあると考える。

- ・自然とのふれあいや地域の人々との対話を通して、子どもたちは自己表現の力、探究心を育てていくことになる。
- ・教室の中だけでなく、日常の中にある小さな感動や挑戦、達成感などを大切にして、学びの楽しさや自己容認感を持つことができる。
- ・学んだことに対して、自分の意見を持つことは勇気のいることだと思うが、勇気をもって自分の意見を持ち、それを行動にできる。そんな学校教育、そして社会教育が必要なのではないか。
- ・教育の米沢品質という言葉には、私たちが目指す理想の教育が込められていると思う。その品質をさらに豊かにしていくため、ウェルビーイングを教育の中の視点に入れて、未来を担う子どもたちにとって、安心と希望に満ちた学の間、環境を整えていきたい。

委員

- ・新しい総合計画の前期基本計画を読んで、「誰一人取り残されない安全安心な教育体制づくり」というところに、強い共感を覚えた。
- ・子どもを持つ親として、子どもたちが安全安心に学習できる教育体制が整っているということが、安心して子どもたちを学校に送り出せることにつながっている。
- ・誰一人取り残されないということを考えて、きめ細やかな指導をすることによって、子どもの心の安定が図られ、子どもの心の安定が図られることによって、安全安心な教育体制や保護者が安心して通わせられる教育環境がつけられると思うので、そのような環境整備を進めてほしい。
- ・安全性ということに関しては、学校給食の安全性ということも、子どもたちの命を守るためにとても重要なことなので、これまでどおり食の安全性を確保することも大事である。
- ・米沢市は、地域の温かさや地域の関りがあるので、そのような温かさを子どもに感じてもらいながら、地域全体で教育ができれば本当に素晴らしいことだと思う。
- ・社会が変化する中でも、以前から大切にされてきたこと、例えば、自分自身を大切にしたり、他人を思いやる豊かな人間性、健やかな体づくりなど、ずっと変わらずに求められてきた力をしっかり身に付け、土台を培って、その土台の上に時代の変化についていく、自ら行動したり、発想したり、表現したりする力を育てることが重要なのではないかと考えた。
- ・時代の変化への対応ということについては、常々溢れる情報の中で、自分に必要な情報を選択する力が大事になってくると思う。ネット社会との上手な距離の取り方、自分で必要な情報を取る力を学生の間に上手に身に付けてほしい。
- ・最後に、高校と大学の連携の推進に関して、「高校生が地域資源を知り、地域課題について学習する機会を支援します。」とあるが、中学生も自分の住んでいる米沢の様々な課題について、思いを持っているように感じているので、高校生だけでなく、中学生など早い時期から、地域資源や地域課題などを学習に取り入れていくことも重要なのではないかとと思う。そのことが地域の未来を考えることや、地域への愛着心を生むことにつながると思う。

教育長

- ・私からは、大きく三つのことをお話させていただく。
- ・一つは、学校教育分野ではないが、私が現職に就いてから、新たな発見がたくさんあった。スポーツで言えば、競技スポーツだけではなく、様々な方々が、様々な楽しみ方をしており、文化についても、音楽、バレエ、お茶などのほか、文化財にも触れることができた。これらは新たな発見であり、大人の私もわくわくするような体験ができたことから、「大人も子どもも学び、楽しむ米沢」ということを、これからも推進、普及や発信することに力を入れていくことが大事であると思った。
- ・二つ目は、連携ということである。市内に大学が三つもあるという強みを活かし、その大学の先生や学生との連携はもちろんであるし、大学に限らず、子どもたちのため、地域社会の役に立ちたいという企業の方や経営者の方々の力を活用することが、子どもたちが米沢の良さをあらためて知ることにつながると思うので、こうした米沢の地域の強みを活かしていきたい。
- ・三つ目は、学校教育についてであるが、今年4月1日の辞令交付式以来、先生方には同じことを繰り返しお話している。
- ・その一つは、「一人一人が大切にされ、それぞれが力を発揮できるような学校風土を作っていたきたい。」ということ。その土台はお互いを認め、リスペクトすることだろうと思う。そうした様々な個性、違いが受け入れられる土壌があってこそ、力が発揮できると思うので、その土台づくりをお願いした。そのことが、子どもたちの力の伸びや不登校、不登校の未然防止にもつながっていく。
- ・二つ目には、そうした土台の上に、「授業改善の積極的な挑戦と時代に合った新たな教育活動の創造」ということである。予測困難な時代をこれから生きていく子どもたちに必要な資質は何かということを考えたとき、OECDが言うような「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」が必要だと考えている。
- ・協働するということは、仲良くするということではなく、「様々な意見を出し合いながら、何とか折り合いをつける力」ということかと思うので、そのようなチャレンジができる授業、子どもたちがわくわくするような教育活動をお願いしている。
- ・もう一つが、「実体験を大切に、米沢が大好きな子どもを育てていただきたい。」ということである。今は、タブレットで検索すれば、すぐにいろんなことを調べることができ、写真や動画を見ることができるが、それだけではなく、やはり実体験の持つ力は大きい。
- ・YCWで実際に働く人の姿を見て学び、感謝されることなどが大事だと思うので、実際に外に出て、米沢で頑張っている人を知り、ともに活動することや、米沢の課題に向き合って、自分たちなりの解決方法を考え、提案、発信するというようなことができれば、行政との関りの中で重要なことをしているということを認識し、自分たちも関わるができる。そして、小中高を通したキャリア教育やふるさと学習など、小中一貫というイメージを持ちながら、ふるさととの主体的な関り方ができればよい。
- ・これまで話をしたようなことができれば、子どもたちが、「明日も学校に行きたい。」という気持ちになるのではないかと考えている。

(2)その他

事務局

- ・次回の総合教育会議の開催予定について説明した。

市長

- ・次回の会議において、本日の議論を踏まえ、教育大綱の案を示させていただいて議論させていただくことになるが、今年は、市の総合計画を含めて大事な議論の場が多いことから、この会議についても、年内にもう1回開催したいと考えている。

【5 閉会】

省略